

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171100381		
法人名	キタノケア株式会社		
事業所名	グループホーム かつらぎ 1階		
所在地	千歳市桂木3丁目1-2		
自己評価作成日	平成29年2月6日	評価結果市町村受理日	平成29年3月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=0171100381-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=0171100381-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成29年2月23日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は郊外の住宅地にあり近隣は緑も多く、季節感を満喫し自然と触れ合う機会をつくっています。家庭的にゆっくり過ごせる雰囲気作りを大切に、笑顔の多い生活が過ごせるように、その人が何をしたいかという気持ちを尊重し、出来るだけ個々に合わせた支援を行っています。介護職員は運営理念「支えあい、喜び合い、ふれあい、慈しみあい、地域の中で共に歩みます」を念頭におき、日々向上心をもって業務に従事し頑張っています。管理者は千歳市地域密着事業所連絡会 絆の会や、ちとせの介護医療連携の会に参加し、他事業所との交流を密に行い、利用者様が日常的に或いは重度化した場合においても、医療機関との連携がスムーズに図れるよう、病院、調剤薬局と連携しています。提携医療機関、提携介護施設と協定を結び、合同避難訓練を実施しています。大災害の場合に備えて他施設への避難を想定した避難訓練も実施しております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺は緑が多く、公園や千歳川沿いの桜の花を眺めながらの散歩が出来る環境である。近隣に協力関係の介護施設もあり、研修、イベント、避難訓練など様々な連携をしている。又、NPO法人ちとせの介護医療連携の会主催のフォーラムで介護がテーマの演劇を行い、医療や介護を一体的に進める地域包括ケアを目指す取り組みが評価され、北海道新聞「道新 地域げんき大賞」に選ばれた。今年度は市内の事業所が介護技術や介護に向き合う姿勢を競う「介護グランプリ」を始める計画である。内部研修は、ユマニチュード主体の研修を毎月全職員が受け、利用者が穏やかに過ごせるように日々のケアに活かされている。運営推進会議には3町内会の知見者も参加し意見や助言を得てサービスの向上に活かしている。利用者は祭りや市の催しに参加して地域住民と一緒に楽しんでいる。事業所は地域住民からの相談や依頼を受け日常的に交流し、理念の「地域の中で共に歩む」を実践している。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は玄関や休憩室、皆が集う場所に掲示しており、ミーティングの時に唱和して、実践に向け取り組んでいます。	「支え合い、喜びあい、ふれあい、慈しみあい、地域の中で共に歩みます。」の理念を掲示し、打ち合わせ時に唱和して確認し、理念を共有して実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	桂木町内や民生委員さんの書類作りをお手伝いさせていただいたり、近隣介護事業所の行事に参加したり、千歳市納涼盆踊りなど市の催しにグループホームの団体会で参加しています。	近隣3町内会と交流がある。地域の住民も書類作成やパソコン指導の依頼で日常的に来訪している。町内の清掃や行事に参加したり、事業所の歌会に住民が訪れるなど交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流の際や、運営推進会議を通じて認知症の方への理解や支援の方法を深めています。また、NPO法人ちとせの介護医療連携の会で主催するフォーラムで演劇などを通して、地域住民への働きかけをおこなっています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議を行い日常の活動報告をしています。参加されている町内会役員の方、ご家族の意見や要望を聞き、サービスの向上に努めています。	地域包括支援センター職員、3町内会知見者、利用者などが参加、2ヵ月毎に開催、事業所の状況や活動、報告事項を中心に話し合っており、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。11月の会議は10周年を振り返り、スライド上映を利用者全員と楽しむ会議となった。	事業所は、開催時間を午後の遅い時間や参加案内に工夫をし、定期開催と参加者からの意見反映に努めているが、家族の参加が少ない状況です。運営推進会議は、家族・地域の人たちが運営を見守ったり、協力者として助言するなど運営上重要な意味・役割を果たす会議として位置づけられていることへの理解を得て、家族が参加しやすい取組を期待する。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	千歳市はもとより各種関連団体と協同して、市民参加型のイベントを企画し、地域包括ケアの実現に向けて取り組んでおります。	管理者は、市に依頼され「就職支援セミナー」の講師をしたり、市と共同のイベントを企画する等、親密な関係を築いている。市には毎月情報誌をおくり、運営状況の報告やアドバイスを受けるなど関係を密にしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束を行わないケアを実践しています。しかし、玄関の施錠については夜間以外は施錠しておりませんが、不審者の対策、防犯を含めて、検討の必要がありますが、まだ対策は講じていません。	各種の研修に参加して全職員が身体拘束の弊害を理解している。不意の離施の利用者には、付き添い対応をしている。職員は安全について考え、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	平成29年2月13日 高齢者の権利擁護を考える集いに参加予定。平成28年11月10日事業所内でも虐待に関する研修会を実施。			

グループホーム かつらぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者様もいます。必要性について話し合える体制を構築しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際に重要事項などの説明を十分行い、理解、納得した上でサインして頂いています。契約後や契約内容の改定に関する疑問等には随時説明して理解、納得を得るように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置をしています。日々の生活の中で行動・言動・表情によりその方の思いを汲み取る努力をしています。また、ご家族とは面会の際、個々にお話して近況等報告し相互理解に努めています。	毎日の会話などから利用者の要望を把握し、家族からは来所時など機会ある度に話し意見や要望を聴くようにしている。遠方の家族には電話で状況報告の連絡の時に意見、要望を聴いている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	4ヶ月に一回、職員面談を実施し、個々に意見や提案を聞く機会を設け改善につなげています。	施設長や管理者は職員の意見を大切にして職員が意見を提案しやすい雰囲気がある。若い年代が中心のわかばの研修、絆の会の研修、認知症フォーラムと多くの研修で学んだ事が運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が向上心を持って働ける様に努めています。平成24年4月より昇給制度を導入。長期間勤務している職員を評価しています。平成28年4月より評価昇給制度に切り替え仕事に対する自己評価をしてもらい、仕事の見える化に取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多くの職員が法人内外の研修を受講出来るようにしています。地域密着型サービスの団体「絆の会」や「ちとせの介護医療連携の会」において、介護、医療、接遇マナー等の講師をお招きして介護事業所に勤める職員のスキルアップ研修を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ちとせの介護医療連携の会で様々なイベントを実施し、関連職種の交流を深めています。詳しくはちとせの介護医療連携の会ホームページ <a href="http://chitose-kenkei.sub.jp/">http://chitose-kenkei.sub.jp/</a> をご覧ください。		

グループホーム かつらぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前より待機の方とは定期的に連絡をさせていただき、話を伺える機会を設けており、顔なじみの関係を作るように努めています。また、担当のCM、SWから情報をいただき、本人との関係づくりにいかしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望申請書(ADL・認知症症状・既往歴・生活歴・在宅歴・施設歴・ご家族の意向)にそって入居前にご家族の要望、意見を十分伝えて頂き、入居後は面会時やモニタリング等の際に、入居者様の日常生活の様子、身体的な事をお伝えして、相談しています。気軽に話して頂ける関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に、ご本人やご家族の思い、状態を確認して、必要なサービスに繋がる様に柔軟な対応をしています。その人らしいケアプランが出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中から楽しみながら生活して頂ける様に、職員間で常に考え仕事をしています。重度化がすすむ中からも日常生活において「できること・できないこと」を話し合い、見極め、一方的ではなく共感する事が多い関係を築けるように努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの出来事や、気づき等をお便りや面会時にお知らせしています。又、行事等へのお誘いを行いご本人とご家族の共有時間がより持てるように努めています。なかなか来ることができないご家族もいますので、職員が親身になり寄り添っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参り、温泉入浴などの外出支援や遠くのご家族、兄弟、知人、友人に電話や手紙での連絡のやり取り、選挙の投票など繋がりを継続出来るように支援しています。	利用者の馴染みの理美容室の利用や、家族と一緒に選挙に行くのを支援したり、遠方の家族、兄弟、知人への電話連絡や手紙交換など関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がお互いの居室を行き来したり、スタッフを交えて会話や歌を唄ったり、食後、他の入居者様の食器の片付けをされたり、支えあって生活しながら、職員はその支援に努めています。		

グループホーム かつらぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も遊びに来られる利用者様もいます。入院時はSWと密に情報交換しながらお見舞いに行っています。また、医療が必要になり退居された場合においても、必要に応じて支援させていただく旨をご家族に伝え、その時々で、対応しております。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報と入居希望申請書により、習慣、趣味等を把握し日々の関わりから、言葉、表情で本人の意向を汲み取り、カンファレンス等で検討しています。	日頃の会話や表情から利用者の意向を把握し困難な場合は家族からの情報や担当職員や他職員とも話し合いカンファレンスなどで本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居希望申請書、ご家族、ご本人からの情報、認定時の市役所からの情報、また日々の会話の中から生活歴、環境、交友関係等を探り、より良いケアのために役立てています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日、その時の心身の状態を見極め、できる事、できそうな事を支援しています。見守りし待つ事、一緒に喜ぶ事、感謝する事も職員は心得ており個人記録、申し送りで日々の情報の共有をしています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意見や思いなどを聞ける場合は、ご本人に聞き取りしています。ご家族の意向も聞き取り、モニタリング・カンファレンス・ミーティングで職員の意見のもと、介護計画を作成しています。	計画作成者を中心に生活記録の中から利用者の問題状況に対する評価、分析を通して、現状に即した介護計画を作成している。日々の個人生活記録は介護計画に連動させ、家族の意向は面会時の話し合いを通して反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を用いてケアの実践、結果、気づき等、日常の様子をプランに沿って記入し各勤務帯で申し送りし情報の共有が出来ています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診対応、訪問看護、訪問歯科、訪問マッサージ、薬局との連携、クリーニング委託、訪問理美容、新聞個人購読、ヤクルト、福祉用具業者、訪問販売(食品)などの業者が出入りし柔軟な支援を行っています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	千歳神社祭や千歳市納涼盆踊りに参加したり、シルバー人材センターに宛名書きを依頼したりしています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族とご相談の上、往診を受けています。その他、かかりつけ医に定期受診しています。著変がある際はご家族と相談の上、情報提供書(共通情報書式)を持参し受診、緊急時でも対応し支援しています。歯科往診・マッサージの訪問もあります。	利用者、家族の意向に添ったかかりつけ医に受診している。受診時、家族が付き添えない時は職員が対応し、利用者、家族の希望に沿った支援をしている。利用者は、訪問看護師による週1回の健康チェックを基に、月一度の医師の往診を受けている。		

グループホーム かつらぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約により、週1回の健康チェックを受けております。また、入居者様に特変があった場合は、都度、訪問看護ステーションやかかりつけ病院へ相談できる体制を整備し、適切な受診対応を心がけております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供しており、ご家族・医療機関の相談員と連携しながら、早期退院に向けて話し合いを行っています。医療機関との関係も構築され、円滑な業務ができています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の事業所が対応しえる最大のケアについて説明します。また、重度化した場合でも協力機関と連携しながら、訪問看護サービスを活用し、GHでの生活を支援しています。地域関係者と介護医療連携、地域包括ケアの推進に努めています。	契約時に「重度化した場合の対応指針」に基づき、看取りについても説明し同意を得ている。協力医療機関や訪問看護サービスを活用し、利用者、家族、職員、関係医療機関と連携し重度化に向けた支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	特変時、緊急時のことを定めた要綱を職員がいつでも見れる場所に掲示しています。また、心肺蘇生用背板を常備しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	千歳市の各関係団体による災害時応援協定緊急連絡網を整備しております。また、独自に近隣の事業所と協定を結び、合同で災害時を想定した避難訓練を実施しております。	市の各関係団体と災害時応援協定緊急連絡網を整備している。避難訓練は年2回、消防署、地域住民参加のもと、訓練を行っている。又、3月に自主訓練の予定や、近隣の事業所と合同で訓練を実施する等、地域と協力体制を築いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的に入居者様のプライバシー保護を重視して気分を損ねる言葉掛けは行わない様、十分配慮し対応しています。また、昨年8月より月一回の事業所内研修会ではホスピタリティとユマニチュードを主体に研修しています。	職員はユマニチュード主体の研修を行っており、利用者の人格を尊重し、言葉かけに配慮し、利用者の経験や感情を認めるなど、その人に寄り添った言葉かけを行い尊厳を損ねない様に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の能力に合わせて、希望や願いを引き出せる様に取り組んでいます。表現が上手く出来ない人には、サインや行動や表情を見逃さない様に自己決定できるよう働きかけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせてられるように、その人が何をしたいかと言う気持ちを尊重し、出来る限り個々の希望にそって支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服選び、身支度はご本人が自由に選べるようにしています。お化粧品・アクセサリー・ヘアスタイルは個々に合わせて支援しています。		

グループホーム かつらぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の得意な事(配膳・後片付け)などを手伝って頂いたり力を発揮出来る場を設ける様に工夫をしています。日常の中で何気なく何が食べたいか聞き取り、可能な限り献立に反映しています。	配膳や片付けを利用者と職員が一緒に行い、職員と一緒に食事をしている。日常の会話の中から嗜好を聞いたり、利用者家族が栽培したぶどうがデザートとして食卓に添えられるなど、楽しむことができる食事支援である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量、形態を工夫して提供していません。水分が難しい入居者様に対しては甘味料などを使い対応しています。また、使用しやすい食器選びを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは個々に応じ継続的に支援していません。また、就寝前に義歯を外していただき清潔を保持しています。異変のあるときは歯科医に気軽に相談できる体制もあります。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しそれぞれの排泄パターンに応じてトイレ誘導を行っています。オムツの使用はご本人の状態に合わせて控えており、極カトイレで排泄できるように取り組んでいます。	排泄シート表を参考に羞恥心に配慮し、声掛けや誘導をしている。一人ひとりの体調に合わせて、利用者の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事メニューに繊維質のある物を取り入れたり、乳製品、オリゴ糖を入れたり工夫している。水分は確認表を利用しています。入居者様の状態に合わせて、体操や歩行運動を実施しています。便秘傾向が強い利用者様は医師と相談しながら下剤で調整しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事前に声かけし、意思確認し、入居者様のその日の気分や状況により行っています。入浴剤や室内温度にも注意を払いリラックスして入浴できるように努めています。	入浴は毎月入浴剤を変えたり、利用者の希望の時間に入浴をするなど工夫をしている。又、利用者の皮膚の乾燥にも気をつけ、入浴を楽しむことができる支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣、その時々に応じて休息しています。就寝時間や起床はご本人のリズムに合わせて支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法や服薬後の変化の確認に努めています。また、入居者様に変化があった場合は医療機関へ相談できる体制を構築し、調剤薬局、訪問看護ステーション、医療機関の相談員へ都度ご相談しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味、テレビ鑑賞、音楽鑑賞、宗教など個々にあった楽しみが出来るよう支援しています。		

グループホーム かつらぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族や介護タクシーと協力し利用者様の気分や希望に応じて外出できるように努めています。希望により近隣のスーパーに出かけられるように支援して、季節ごとに行事計画を立てながら、出かける機会を作っています。	散歩、買い物、銀行に行くなど日常的な外出や年間行事予定も作成、紅葉狩り、近隣の観光地や利用者が希望する戸外へ出かけている。車両も事業所の車が使用できない時は、協力関係のある介護タクシーで出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方にはご家族の了解を得て、小額の所持金を持っていただいています。買い物の支払いもしています。事業所で管理している方でも外出時はご自分で支払うように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にして頂いています。一連動作、作業ができない部分はお手伝いさせて頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一つ一つの窓が大きく日差しが十分に入り、明るく、暖かくゆったりしたリビングでくつろげます。生活音にも気を配り食事中は音楽を流しています。季節に合わせた飾り物などを飾っています。近隣は自然が多く季節感があり、外出時は季節の訪れを感じることができます。	リビングは広く大きな窓から明るい日差しが差し込み、温度、湿度も適度に調整され清潔である。対面キッチンから職員と利用者がお喋りを楽しめ、心地よく過ごせる空間である。程よい飾りつけの工夫は季節を感じさせる。食事の音楽も心地よく工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士がソファで談話したり、テレビ鑑賞したり、食卓テーブルにて塗り絵、折り紙、パズル等されたり、廊下歩行運動をされている方等、個々に共用空間で過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談して理解を得ながら、使い慣れた物を持参して頂き、安心して心地よく過ごせるように努めています。	利用者は、家族の写真やお気に入りの小物を飾り、以前から使い慣れた家具を配置、親族、友人が訪問の際は、お茶を飲みながらお喋りを楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、廊下、トイレ、浴室には手すりを設置しています。見やすい時計、日めくりカレンダー、トイレマーク等、必要に合わせて環境を整備し、安全に自立した生活ができるように工夫しています。		